

最難関問題

連続する3つの単位分数の和

$\frac{1}{1} + \frac{1}{2} + \frac{1}{3}$, $\frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \frac{1}{4}$, $\frac{1}{3} + \frac{1}{4} + \frac{1}{5}$, ... と分子が1で分母が連続する整数の3つの分数の和を求める

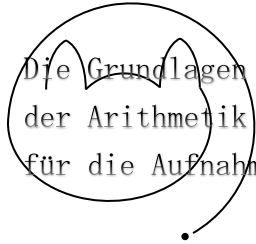
式が順に並んでいます。

(1) $\frac{1}{1} + \frac{1}{2} + \frac{1}{3}$, $\frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \frac{1}{4}$, $\frac{1}{3} + \frac{1}{4} + \frac{1}{5}$, $\frac{1}{4} + \frac{1}{5} + \frac{1}{6}$, $\frac{1}{9} + \frac{1}{10} + \frac{1}{11}$

を計算した答えをそれぞれ求めなさい。

(2) 計算した答えの分子が541になる式のうち、最初に現れる式を答えなさい。

(3) 計算した答えの分子と分母の差が24271になるような式のうち、最初に現れる式を答えなさい。



最難関問題

連続する3つの単位分数の和

$$(1) \frac{11}{6}, \frac{13}{12}, \frac{47}{60}, \frac{37}{60}, \frac{299}{990} \quad (2) \frac{1}{18} + \frac{1}{19} + \frac{1}{20} \quad (3) \frac{1}{29} + \frac{1}{30} + \frac{1}{31}$$

$$(1) \frac{1}{1} + \frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{11}{6}, \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \frac{1}{4} = \frac{26}{24} = \frac{13}{12}, \frac{1}{3} + \frac{1}{4} + \frac{1}{5} = \frac{47}{60}, \frac{1}{4} + \frac{1}{5} + \frac{1}{6} = \frac{74}{120} = \frac{37}{60}$$

$$\frac{1}{9} + \frac{1}{10} + \frac{1}{11} = \frac{299}{990} \text{です。}$$

$$(2) \frac{1}{9} + \frac{1}{10} + \frac{1}{11} \text{を例にとると, } \frac{1}{9} + \frac{1}{10} + \frac{1}{11} = \frac{10 \times 11 + 9 \times 11 + 9 \times 10}{990} \text{です。ここで分}$$

子の計算に注目すると、299は真ん中の数である10×10のほぼ3倍になっています。

10×11+9×10を計算すると、

$$10 \times 11 + 9 \times 10 = 10 \times (11 + 9) = 10 \times 20 = 10 \times 10 \times 2 \text{となります。}$$

また、9×11は、9×11=9×10+9×1であり、10×10=10×9+10×1よりは1小さくなるので、9×11=10×10-1です。こうして、10×11+9×11+9×10は、

10×10×3-1となります。

$$\text{同様にして, } \frac{1}{1} + \frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{2 \times 2 \times 3 - 1}{6} = \frac{11}{6}, \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \frac{1}{4} = \frac{3 \times 3 \times 3 - 1}{24} = \frac{13}{12},$$

$$\frac{1}{3} + \frac{1}{4} + \frac{1}{5} = \frac{4 \times 4 \times 3 - 1}{60} = \frac{47}{60}, \frac{1}{4} + \frac{1}{5} + \frac{1}{6} = \frac{5 \times 5 \times 3 - 1}{120} = \frac{37}{60} \text{が成り立っています。}$$

541の場合、541+1=542は3の倍数ではないので、541×2+1=1083を考えます。

1083÷3=361、361=19×19なので、

$$\frac{1}{18} + \frac{1}{19} + \frac{1}{20} = \frac{19 \times 19 \times 3 - 1}{18 \times 19 \times 20} = \frac{1082}{18 \times 19 \times 20} = \frac{541}{9 \times 19 \times 20} \text{となります。}$$

よって、 $\frac{1}{18} + \frac{1}{19} + \frac{1}{20}$ です。

最難関問題

(3) (2) の $\frac{1}{18} + \frac{1}{19} + \frac{1}{20} = \frac{19 \times 19 \times 3 - 1}{18 \times 19 \times 20}$ の計算において、

分母は $18 \times 19 \times 20$ 、

分子は、 $19 \times 19 \times 3 - 1 = 18 \times 19 \times 3 + 1 \times 19 \times 3 - 1$ 、

分子と分母の差は、 $18 \times 19 \times (20 - 3) - 1 \times 19 \times 3 + 1$ となるので、

だいたい $17 \times 18 \times 19$ です。「だいたい」なので、 $18 \times 18 \times 18$ と考えてもよいでしょう。

24271 については、 $30 \times 30 \times 30 = 27000$ の少し手前であることがすぐにわかるので、 $29 \times 29 \times 29$ を計算すると、 24389 となります。

$$\frac{1}{29} + \frac{1}{30} + \frac{1}{31} = \frac{30 \times 30 \times 3 - 1}{29 \times 30 \times 31} = \frac{2699}{26970}$$

は既約分数で、

$26970 - 2699 = 24271$ なので、 $\frac{1}{29} + \frac{1}{30} + \frac{1}{31}$ が答えとなります。